



■市指定文化財第2号  
「灰釉梅花大壺」

今回は、現在行われている「都留市のたからもの」展から、市指定文化財第2号の「灰釉梅花大壺」を紹介いたします。この壺は昭和41年、市内の工事現場から、ほぼ完全な形で発見され、工事関係者から市に寄贈されました。東京国立博物館の鑑定では、およそ500年ほど前の室町時代末に作られた、常滑焼の壺とされています。

ミュージアム都留企画展  
「都留市のたからもの  
～都留市文化財展」

10月16日(土)～11月28日(日)

MUSEUM  
ミュージアム都留  
&  
増田誠美術館

開館時間 午前9時～午後5時  
※増田誠美術館は午後4時30分まで  
観覧料 一般 300円(210円)  
高・大学生 200円(140円)  
小・中学生 100円(70円)  
※( )内は、20名以上の団体料金です。  
休館日 月曜日、第3火曜日  
祝日の翌日  
問合先 ミュージアム都留  
☎45-8008



調査見積  
上：調査箇所  
左：発掘された石積み

Report  
勝山城の調査を終えて  
— 帯郭調査編 —  
今月は帯郭の調査成果について説明します。帯郭は三の丸の東に位置し、勝山城の北東を帯状に取り巻く平坦面です。帯郭の北斜面では、二の丸と同様に草木に覆われた斜面の一部で人頭大の石が確認されています。調査の結果、石積みは確認されました。石積みは崩落しているため、どのような形状をしているか明らかではありませんが、斜面の花崗岩を段状に切り取り成形していることから、地山の花崗岩から直に積まれたものと考えられます。本丸が

ら南へ延びる平地から帯郭がよく見渡せ、石積みの一部で礎石と考えられる扁平な石材が確認されている建造物が存在したことを考慮すると、帯郭には門が存在した可能性が推測されます。石積みは帯郭の空間を狭め、門の脇を固める役割を担っていたと考えられます。石積みを構成する石材は花崗岩のほか、玄武岩、凝灰岩、安山岩が確認されています。玄武岩、凝灰岩は勝山城には存在しない石材であることから、これらが多く分布する桂川周辺から調達した可能性が考えられます。遺物は煙管と陶器の破片が確認されています。

増田誠美術館

「第19回増田誠大賞公募展」受賞者決定!

今年も数多くの作品が寄せられ、応募総数331点の中から、審査の結果111点の入賞作品が選ばれました。

一般の部

- 大賞 中野麻子「ひととき」
- 市長賞 清水愛子「微風の下で」
- 議長賞 小林奈津美「マフラーのある静物」
- 教育長賞 羽田美恵子「12月の赤い花」
- 市長奨励賞 瀧本行雄「葉月の宵」
- 八木厚紀「ふたつの昇る月」
- 渡辺 恵「希望」
- 椎名恭子「燦燦」
- 宮崎さおり「ワインボトルのある絵」
- 藤本茂次「桂林寺の睡蓮池」
- 仲村作雄「家族」
- 桑原麗子「夢への響き」
- 古屋誠子「バラ」

議長奨励賞

教育長奨励賞

小中学生の部

- 大賞 白井英寿「海」
- 市長賞 田辺賢斗「にげる!!赤い恐竜!」
- 議長賞 五味結衣花「金魚」
- 教育長賞 藤江 遼「三つの滝を通る富士山特急」
- 市長奨励賞 奈良優輝「ぞうとおじさん」
- 相澤万葉「部屋のすみの工具」
- 議長奨励賞 広瀬理名「大好きなシンデレラ姫」
- 田辺泰盛「せんこう火花」
- 内藤雄介「大きいシャベルカー」
- 佐藤美里「街」
- 教育長奨励賞 徳永麻美子「水しぶき」
- 相澤優音「てがみ」
- 平井 諒「ぼくのゆうえんち」

議長奨励賞

- 教育長奨励賞

「増田誠とゆかりの作家展」開催中

会期 11月14日(日)まで